

2015年11月19日  
国立民族学博物館  
株式会社海遊館



**国立民族学博物館**  
National Museum of Ethnology



## 国立民族学博物館とニフレル（株式会社海遊館）が 連携協力協定を締結

ニフレル開館記念トークイベント「みんなく×ニフレル—人と生き物をつなぐ」を共催

国立民族学博物館（大阪府吹田市：館長 須藤健一）とニフレル（大阪府吹田市：館長 小畑洋、運営：株式会社海遊館）は、産学連携の推進、学術研究の振興、研究成果による社会貢献、その他の諸活動の発展に向けた連携協力をおこなうことを目的として、本日、協定を締結いたしましたのでご案内申し上げます。

### ■連携協力協定に関する事項

- （１）教育的展示に関する学術情報の交換
- （２）共同研究、受託研究等のテーマの選定及び推進
- （３）研究者、飼育員および事務職員の交流
- （４）セミナー等への研究者、飼育員および事務職員の派遣
- （５）その他、両者の協議により必要と思われる事項

### ■協定締結の経緯

株式会社海遊館の運営する新施設ニフレルが、万博記念公園のEXPOCITY（大阪府吹田市）に開館することに伴って、株式会社海遊館から国立民族学博物館に、「教育的展示」「共同研究」等を目的にした学術交流の協定を締結する要望があり、この度締結に至った。

### ■協定締結の目的

#### （１）国立民族学博物館

これまで生態人類学および博物館展示の研究において、大きな成果をあげており、両分野に精通した多くの研究者を抱えている。協定により、本館の研究成果の活用および教育的展示に関する学術情報の交換を可能にするとともに、共同研究への展開及び推進を図ることができる。

#### （２）ニフレル（株式会社海遊館）

海遊館（大阪市港区）における多種多様の生物の飼育下研究、社会教育プログラムの実績を踏まえ、ニフレルを開設した。ニフレルでは、多様な生物の魅力を広く発信し、人が本来備える自然や生命に対する感性に訴え、人と自然の関係性に気づきを与えることに取り組む。

本協定により、学術情報の交換を可能にするとともに、共同研究への展開及び推進を図ることができる。

## ■今後、想定される連携・協力事項

- (1) 国立民族学博物館及び株式会社海遊館の共同企画による講演会、研究会、展示等の開催
- (2) 両者による新たな展示技法等の共同開発

## ■「国立民族学博物館（みんぱく）」について

1974年6月に創設し、1977年11月に開館した博物館をもつ研究所です。文化人類学・民族学に関する調査・研究をおこなうとともに、民族資料の収集・整理・公開などの活動をすすめて、世界の諸民族の社会と文化に関する情報を人々に提供し、諸民族についての認識と理解を深めることを目的としています。2016年2月からは、特別展として「夷酋列像 ―蝦夷地イメージをめぐる 人・物・世界―」を開催します。



## ■「ニフレル」について

海遊館が初プロデュースする、水族館、動物園、美術館のジャンルを越えた「生きているミュージアム」。コンセプトは「感性にふれる」。多様ないのちと個性のつながりを合計7つの展示ゾーンで表現し、まるでアートを楽しむかのように、生きものや自然の魅力を直感的に間近に楽しめる工夫を凝らしています。子どもはもちろん大人の感性も刺激し、心を豊かにします。2015年11月19日に開業。



ニフレルを象徴する展示ゾーン「WONDER MOMENTS」



来年の干支「さる」(ワオキツネザル)



イノシシに似たブタと人(ベンガルデルタ)



ペットのサル(アマゾン)

本協定を受け、ニフレル開館記念として、国立民族博物館と株式会社海遊館（ニフレル）によるトークイベントを下記の通り開催いたします。なお、本イベントは国立民族学博物館年末年始展示イベント「さる」関連行事でもあります。

## 【開催概要】 トークイベント「みんぱく×ニフレル—人と生き物をつなぐ」

世界の人びとと動物との関わりをテーマに、国立民族学博物館と生きているミュージアム・ニフレルが協力して人と生き物との関係、生き物文化誌を紹介します。




《講演1》テーマ「“つながり”にふれる」 小畑洋（ニフレル館長）

《講演2》テーマ「世界の諸文化からみた生き物と人—地球をフィールドワークする—」 池谷和信（国立民族学博物館教授）

《対談》小畑洋×池谷和信

《司会》上羽陽子（国立民族学博物館准教授）

### ■登壇者紹介

	<p><b>小畑洋（ニフレル館長）</b></p> <p>海遊館開業当初より飼育担当として勤務し、国内では類を見ないジンベエザメの陸上長距離輸送や、希少なイトマキエイの飼育展示にも世界で初めて成功する。海遊館最大のリニューアル「新体感エリア」及び「生きているミュージアム“ニフレル”」建設の中心人物となって構想・監修を行う。2015年4月にニフレル館長に就任。</p>
	<p><b>池谷和信（国立民族学博物館教授）</b></p> <p>人類学、地理学、生き物文化誌学専攻。アフリカを中心に、日本を含むアジア、シベリア、アマゾンなどの狩猟採集や家畜飼育の文化から、地球の生き物と人とのかかわり方を研究している。主な単著に『人間にとってスイカとは何か』（臨川書店、2014年）、『家畜ってなんだろう』（童心社、2013年）、編著に『地球環境史からの問い』（岩波書店、2009年）など。</p>
	<p><b>上羽陽子（国立民族学博物館准教授）</b></p> <p>専門は民族芸術学、染織研究。インドを中心に牧畜を主に生業とする人びとの手仕事や、家畜の毛利用などについて研究している。著書に『インド、ラパーリー社会の染織と儀礼—ラクダとともに生きる人びと』（昭和堂、2006年）、『インド染織の現場—つくり手たちに学ぶ（フィールドワーク選書（12））』（臨川書店、2015年）がある。</p>

日時： 2016年1月11日（月・祝） 13:30～15:00

場所： 国立民族学博物館 本館第5セミナー室

定員： 100名／要事前申込（専用ウェブサイトより申込）

参加費： 無料（当日は無料観覧日）

主催： 国立民族学博物館、株式会社海遊館（ニフレル）

### <本件に関するお問い合わせ先>

国立民族学博物館 広報係 担当：小埜（おの）

電話：06-6878-8560 FAX：06-6875-0401 URL：<http://www.minpaku.ac.jp/>

株式会社海遊館ニフレル事業部 広報・PR担当：田井（たい）

電話：06-6876-2204 FAX：06-6876-2235 URL：<http://www.nifrel.jp/>